

■先週・今週の事務局からのお知らせ

先週・今週のお知らせは特にありません。

■リサイクルポートに関連する最新の情報

1. 姫川港で熊本豪雨の災害廃棄物受け入れ。整備した西ふ頭 3 号岸壁

リサイクルポートの新潟県糸魚川市の姫川港西ふ頭 3 号岸壁で 8 月 2 日、熊本県からの災害廃棄物の荷揚げ作業が行われた。西ふ頭 3 号岸壁（水深 10m、延長 170m）は本年 4 月に完成、同岸壁での初の荷揚げとなった。

荷揚げされたのは、令和 2 年 7 月の熊本県豪雨災害で発生した災害廃棄物（木くず）約 666 t で、八代港から積み込まれた。今年度計画では八代港から今回を含め計 5000 t の受け入れを予定している。

同港での平成 28 年熊本地震以降の災害廃棄物の受入総量は約 6・3 万 t になる。受け入れた災害廃棄物は、同港背後にある明星セメント糸魚川工場において、バイオマス発電燃料として使用し、発生した焼却灰はセメント副原料として再利用される。

2. 酒田港古湊 3 号岸壁改良、金属くず輸出先の遠隔地化に対応

山形県は酒田港北港地区古湊 3 号岸壁の大型化（延伸・増深）及び耐震強化の事業化を昨年度に引き続き要望している。

今年度は国が岸壁整備を事業化できるかを検証する調査を実施しており、今後はその動向に合わせて県の調査を行う。古湊 3 号岸壁は水深 12m、延長 230m の耐震岸壁。

古湊ふ頭第 3 号岸壁はバイオマス発電の燃料になる輸入チップや金属くずなどを取り扱う。このうち金属くずについては、輸出先の遠隔地化に対応するため、輸出事業者や他のリサイクルポートの港湾管理者等とともに、金属くずの合積み等の検討も進めている。

3.国交所港湾局、第2回CNPの形成に向けた検討会を開催

開会にあたって国土交通省の遠藤仁彦大臣官房技術参事官は、「CNP形成に向けた議論は6月の第1回検討会から2か月が経過した。この間政府は骨太の方針を取りまとめ、グリーン成長戦略や国土交通グリーンチャレンジなどの方針でもCNP形成がしっかりと位置付けられた。一方、海外では6月に欧州の主要5港で、定期的に超大型コンテナ船を取り扱うコンテナターミナルで2028年を目標に陸上電力供給設備を集中的に実装していこうという覚書を締結した。世界の港湾においても脱炭素化の取り組みが着実に進められようとしている。こうした世界の動きに遅れることなく、むしろ日本が世界の港湾における脱炭素化の動きをリードしていくためにも、この検討会で今後の政策の方向性を示すとともに、各地域の検討を促すマニュアルを作成することが重要だと考えている。本日は中間とりまとめ案を提出する。これについて忌憚のないご意見ご議論をいただければ幸い」と語った。

4.港湾局、洋上風力調査事業を選定。北海道・山形・岩手の3海域

国土交通省港湾局と経済産業省資源エネルギー庁は7月30日、「洋上風力発電の地域一体的開発に向けた調査研究事業」を活用して調査を実施する3海域を選定したと発表した。着床式の「北海道岩宇及び南後志地区沖」と「山形県酒田市沖」に加え、浮体式の「岩手県洋野町沖」が選ばれた。

促進区域など区域指定の前段階にある3海域では今後、洋上風力発電事業の基本設計に必要な風況、海底地盤、気象海象、漁業の実態に加えて環境影響評価で初期段階に行う調査などを実施する。

※港湾空港タイムス8月09日号から編集

※新たに導入したPCとメーカーの環境では、添付ファイルが「***.dat」となったり、不要な添付ファイルが付く場合があります。受信ファイルに不具合がある場合は、気兼ねなくその旨ご指摘ください

////////////////////////////////////

発行者：RPPC 広報部会

部会長：新谷 聡 りんかい日産建設（株）

部会員：山田 安彦 日本製鉄（株）

友歳 巖 五洋建設（株）

川田 延也 東京都

齋藤 憲雄 山形県リサイクルポート情報センター

リサイクルポート推進協議会 事務局

一般財団法人みなと総合研究財団（内） 担当：押田、清水、安田

URL: <http://www.rppc.jp/> E-mail: rppc_jimukyoku@wave.or.jp

////////////////////////////////////